

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	熊本大学	申請大学長名	谷口 功
申請類型	複合領域型（生命健康）	プログラム責任者名	竹屋 元裕
整理番号	I 0 2	プログラムコーディネーター名	糸 昭苑
プログラム名	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム H I G O		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) プログラムでは、大学-行政-産業界の密接なタイアップによって、医学・薬学・生命科学等を基盤とする健康生命科学の広く深い専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観（主にアジア）を連結することで、国際・地域社会の諸課題とニーズを俯瞰的に捉えて、その解決に挑戦できるグローバル（グローバル+ローカル）な「健康生命科学パイオニア」としてのリーダーを養成する。医学・薬学・生命科学等から重要点を抽出・統合して、文理融合型の育成コースを新規開設し、中核となる生命科学分野における高度な専門性を持ちつつ、熊本大学と熊本県・熊本市が一体となったグローバル社会文化科学を通して、日本とアジア、歴史と文化、行政経済と社会倫理などを理解することで、健康生命科学をグローバル社会の中に位置づける。具体的には、医療・保健、創薬・薬事、教育・研究など、健康生命科学の諸分野で、ひとの健康の維持・増進に寄与し、コミュニケーション能力を磨いて、世界と地域の諸課題を自ら発見・行動し、次代を担う産官学の新しいコラボレーションを創出できるグローバル社会リーダーの輩出を実現する。

熊本大学は、全学的に大学院教育と先端研究を推進する「大学院先導機構」を設置し、新たなパラダイムを描きながら各研究領域における大学改革を図っている。本プログラムは、大学院先導機構の統括的な指揮の下に実施され、学長主導の大学改革の核となる。

2. プログラムの進捗状況

平成24年度は、このグローバルな健康生命科学パイオニアのリーダー養成プログラムの基盤確立を達成するために、下記の①～⑤に重点を置いて、HIGOプログラムの実施体制を整備し、平成24年度入学学生の教育研究活動を開始した。

① HIGOプログラム実施のための熊本大学支援体制の確立

事務支援体制として、教育研究推進部に、新たに平成25年4月から「先端研究教育拠点推進ユニット」を設置することとし、リーディング大学院の支援を関係部局と連携を図りつつ共同して行う体制を整備した。

② HIGOプログラムを実施するための環境整備

・HIGOプログラムのカリキュラムの編成

講義・演習、会議等に必要な設備を整備した。そのために、教育研究用設備の購入と設置、薬学教育部および社会文化科学研究科において、eラーニングシステムの構築を行った。また、異なるキャンパスに属する教員によるHIGOプログラム担当者会議を迅速に行うために、リアルタイムのビデオ会議システムを導入した。このシステムは、各キャンパスで開催されるセミナーや講義を本プログラムの学生に効率的に開放するために活用できる。

・最先端研究を推進するための設備備品を整備した。

・履修科目の整備を行った。社会文化科学講義（基礎・専門）の組み込み、新設の各演習科目、リーダー養成科目を順次追加する。

③ HIGOプログラムの専任教員などの配置

・本プログラムに専任する教員と職員の採用：特任准教授1名・特任助教5名の選考を行い、25.5.1から採用することとした。（特任助教1名については25.6.1採用）

・政策創造研究教育センターに、コーディネーターの役割を果たす技能補佐員（教務助手）を1名採用した。

・25年度プログラムの打合せ等を目的として、外国人研究者を1名招へいした。（メイ・ダリル・レイモンド氏（ユネスコ・リージョナルアドバイザー（本学客員教授））（25.2.24～25.2.27））

・年々高度化する科学技術の習得を支援するため、リサーチサポートアソシエイトを1名雇用した。

・カリキュラムの履修を管理する事務補助員3名を雇用した。

④ 平成24年度の本プログラム入学学生の選抜とカリキュラムの実施

・平成24年度入学の大学院生で、HIGOプログラムの履修を希望する者に対し、英語能力試験（TOEFLなどの英語能力検定試験で代用可能）、小論文、面接試験等による選抜試験を行い、早期に受け入れた。

・本年度開講可能なカリキュラムの実施：行政セミナー、企業セミナー、最先端研究セミナー、研究室ローテーション等を実施した。

・外部講師による行政セミナーなど、英語での講義実施が難しい場合には、同時通訳を依頼することとした。（25.4に2回の行政セミナーで依頼予定）

・また、必要な書籍などを購入し、自発的学習を促進する環境を整備している。

・最先端の情報取得のために、本プログラムの学生3名を学会に（日本薬理学会（25.3.21～23、福岡）、日本薬学会（25.3.27～30、横浜）、また、プログラム実施に協力する教員等をフォーラム等に（博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2012、8名）参加させた。

・本プログラムの学生の研究課題の設定と進行、論文作成の準備を行った。

・本プログラムに専念できるように学生支援体制の強化として奨励金を支給した。（平成24年度は9名に支給）

⑤ 次年度以降に向けての入学学生のリクルートと広報活動

- ・医学教育部、薬学教育部の平成24/25年度入学の大学院生を対象とする、本プログラムについての説明会を開催した。
- ・平成25年度以降の優秀な大学院生獲得に向けて、国内外の教育研究機関、行政・企業にHIGOプログラムの周知・広報を行った。パンフレットについては、平成25年度の作成に向けて、内容の検討を行った。
- ・ホームページを作成した。(日本語、英語、中国語など)。
- ・海外からの大学院生の募集に関しては、アジアを中心とした熊本大学外国人教員をリクルート担当教員として、各出身国で積極的に広報し、学生のリクルートを行った。(24年度は、中国、韓国、台湾、フィリピン、米国(ハワイ)に訪問)
- ・産官学が共同したキックオフシンポジウムの25年度開催に向けて準備を開始した。